

参考資料

(本書は米国時間 2016 年 7 月 28 日に米国で発表済みの英文プレスリリースの和訳です。
解釈に相違が生じた際には、英語版を基準とします)

2016 年 7 月 29 日

Aflac Incorporated は 2016 年度第 2 四半期の業績を発表 2016 年度の 1 株当たり事業利益及び販売の見通しを確認 2016 年度第 3 四半期現金配当を宣言

Aflac Incorporated (以下、「当社」)は本日、2016 年度第 2 四半期の業績を以下のとおり発表しました。

当四半期の収益合計は、円高ドル安を反映し、前年同期の 53 億ドルから 2.8%増加し、54 億ドルとなりました。当期純利益は、前年同期の 5 億 7,300 万ドル(希薄化後 1 株当たり 1.32ドル)から 5 億 4,800 万ドル(同 1.32ドル)となりました。

有価証券取引及び減損による税引後資産運用実現損益については、前年同期の当期純利益には 6,000 万ドル(実現損とのネット。希薄化後 1 株当たり 0.14ドル)の実現益が含まれていたのに対し、当四半期の当期純利益には、1,300 万ドル(実現益とのネット。希薄化後 1 株当たり 0.03ドル)の実現損が含まれていました。当四半期の日本社の一部のドル建て投資に関連するヘッジ費用は、税引後ベースで 3,100 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.08ドル)でした。当四半期のその他のデリバティブ及びヘッジ活動による税引後資産運用実現損(実現益とのネット)は 9,100 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.22ドル)でした。これらに加えて、当期純利益には、その他及び非経常的損益からの 2,400 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.06ドル)の税引後損失が含まれていました。

当社は、当社事業に収益をもたらす諸要素について理解するために、事業利益(米国会計基準 GAAP 外の指標)の分析が極めて重要であると考えています。事業利益とは、有価証券取引、減損、デリバティブ及びヘッジ活動から生じた資産運用実現損益ならびにその他及び非経常的損益を除外し、社債等に関連した支払金利を含む、当社事業から得られる利益です。当社のデリバティブ活動は、主として当社の運用ポートフォリオに係る為替リスク及び金利リスクをヘッジすることを目的としたものであるとともに、一部の社債に係る為替リスク及び将来の円建ての予測キャッシュフローに係る為替リスクを管理することを目的としています。有価証券取引、減損、デリバティブ及びヘッジ活動から生じる資産運用実現損益ならびにその他及び非経常的損益は、全般的な経済情勢など外部環境が大きく影響すること、あるいは当社の保険事業に直接関係しない数少ない取引に関連するものであることから、当社保険事業の基盤や傾向を必ずしも正確に反映していないため、当社では、保険事業の財務業績を評価するにあたっては事業利益を用いています。これらの調整項目が予測不能で制御不能な性質を有していることから、当社は将来の事業利益目標については、米国会計基準 GAAP と同様の計算をしておりません。

さらに、アフラックの事業全体に占める日本社の割合が非常に大きいいため、日本の機能通貨である円から米ドルへの換算が事業利益に与える影響を理解することも同様に重要であると考えています。当社は、日本社の損益計算書の作成にあたっては、当該期間の平均円/ドル為替レ

トを、また貸借対照表の作成にあたっては、期末の円／ドル為替レートを、それぞれ使用していますが、利益送金、再々保険取引の決済及び日本社のドル建て投資プログラム等を除いて、実際に円貨をドル貨に換金することはありません。したがって、当社は、外貨の換算は、当社や株主に対して実際に経済的な意味を持つものというより、むしろ財務諸表作成の目的に利用するものと考えています。また、為替変動によっては当社事業の成長率が歪められてしまうため、当社は、財務諸表を使って当社事業を評価する場合、為替変動の影響を除外した財務業績も評価すべきであると考えています。本リリースの最後に、為替変動の影響を含めた場合とそれを除外した場合の主な業績数値の比較表を、その影響を示すために掲載していますので、ご参照ください。

当四半期の平均円／ドル為替レートは、前年同期の121.20円から11.9%円高ドル安の108.28円となりました。また、本年度上半期の平均円／ドル為替レートは、前年同期の120.14円から7.4%円高ドル安の111.82円となりました。日本社の当四半期及び本年度上半期のドルベースでの成長率は、円高ドル安により押し上げられました。

当四半期の事業利益は、前年同期の6億5,100万ドルから、7億700万ドルとなりました。当四半期の希薄化後1株当たり事業利益は、前年同期に比べて14.0%増加し、1.71ドルとなりました。為替レートが円高ドル安に推移したことで、当四半期の希薄化後1株当たり事業利益は、0.09ドル増加しました。円高ドル安の影響を除いた希薄化後1株当たり事業利益は、8.0%増加しました。

本年度上半期の業績も、円高ドル安により押し上げられました。収益合計は前年同期の105億ドルから3.6%増加し109億ドルとなりました。当期純利益は前年同期の12億ドルから13億ドルに、希薄化後1株当たり当期純利益は2.83ドルから3.06ドルとなりました。一方、本年度上半期の事業利益は、前年同期の13億ドルから14億ドルに、希薄化後1株当たり事業利益は前年同期の3.04ドルから3.44ドルとなりました。円高ドル安による、希薄化後1株当たりのプラスの影響0.12ドルを除くと、本年度上半期の希薄化後1株当たり事業利益は9.2%増加しました。

運用資産及び現金・預金合計は、2016年3月31日現在の1,143億ドルから2016年6月30日現在では1,260億ドルとなりました。

当四半期、当社は4億ドル相当(590万株)の自己株式を取得しました。本年度上半期、当社は10億ドル相当(1,600万株)の自己株式を取得しました。2016年6月30日現在、当社の自己株式取得承認枠は、3,230万株となっています。

株主持分は、2016年3月31日現在が200億ドル(1株当たり48.22ドル)であったのに対し、2016年6月30日現在では226億ドル(1株当たり54.98ドル)でした。株主持分に含まれる保有有価証券及びデリバティブに係る未実現益(ネット)は、2016年3月31日現在が47億ドルであったのに対して、2016年6月30日現在では64億ドルでした。当四半期における平均株主持分に対する利益率は、年率換算で10.3%でした。事業ベース(当期純利益に含まれる資産運用実現損益(ネット)及び株主持分に含まれる運用資産及びデリバティブに係る未実現損益を除く)で見ると、当四半期における平均株主持分に対する利益率は、年率換算で18.0%(事業利益に対する円高の影響を除くと15.5%)でした。

日本社

当四半期、円ベースで見ると、保険料収入は1.8%増加しました。投資収益(ネット)は5.4%減少しました。当四半期の日本社の投資収益は、ドルから円への換算において、円高ドル安の影響により圧迫されました。当四半期の日本社の収益合計は、前年同期比0.7%増加しました。当四半期の税引前事業利益率は、前年同期の21.1%から20.7%に低下しました。円ベースの税引前事業利益は、報告ベースでは前年同期比1.0%減少しましたが、為替変動の影響を除けば、3.0%増加しました。一方、本年度上半期の円ベースの保険料収入は1.0%の増加、投資収益(ネット)は3.6%の減少、収益合計は0.2%の増加、税引前事業利益は0.9%の減少でした。

当四半期の日本社のドルベースでの成長率は、著しい円高ドル安の影響により、押し上げられました。当四半期の保険料収入は14.3%増加し、34億ドルとなりました。投資収益(ネット)は6.1%増加し6億4,200万ドルとなりました。収益合計は12.9%増加し、41億ドルに、税引前事業利益は10.8%増加し8億3,900万ドルとなりました。本年度上半期の保険料収入は前年同期比8.7%増加し、66億ドルとなりました。投資収益(ネット)は3.8%増加し13億ドルとなりました。収益合計は7.9%増加し79億ドルに、税引前事業利益は6.4%増加し、17億ドルとなりました。

当四半期の新契約年換算保険料は1.1%減の303億円(2億8,000万ドル)となりました。当四半期のがん保険と医療保険を含む第三分野商品の販売は、11.2%増加しました。当四半期のWAYSと学資保険を含む第一分野商品の販売は、24.7%減少しました。

本年度上半期の新契約年換算保険料は6.7%増加して614億円(5億5,100万ドル)となりました。本年度上半期、第三分野商品の販売は、6.4%増加しました。

米国社

当四半期の米国社の保険料収入は2.2%増加し、14億ドルとなりました。投資収益(ネット)は4.4%増加して1億7,600万ドルとなりました。収益合計は2.5%増の15億ドルとなりました。当四半期の税引前事業利益率は、前年同期の19.5%から19.0%となりました。税引前事業利益は、前年同期比0.3%減の2億9,100万ドルとなりました。本年度上半期の収益合計は2.4%増の31億ドルに、保険料収入は2.2%増の27億ドルとなりました。投資収益(ネット)は4.7%増加して3億5,000万ドルとなりました。税引前事業利益は、前年同期比8.0%増の6億2,300万ドルとなりました。

当四半期の米国社の新契約年換算保険料合計は1.0%増加し、3億4,700万ドルとなりました。本年度上半期の販売は2.3%増加して6億7,500万ドルとなりました。

現金配当

取締役会は、2016年度第3四半期支払いの四半期現金配当を1株当たり0.41ドルとすることを発表しました。この現金配当は、2016年8月24日の営業時間終了時点の登録株主に対し、2016年9月1日に支払われます。

今後の見通し

当四半期の当社の業績について、当社会長兼最高経営責任者であるダニエル・P・エイモスは次のように述べています。

「当四半期の日米両国における当社の財務業績が堅調な推移を示し、当社の 2016 年度の目標達成に向けて前進したことを喜ばしく思っています」

「日本社においては、当四半期に第三分野商品の販売が 11.2%増加したのは特筆すべきことです。日本におけるマイナス金利環境を認識し、第一分野商品の販売を抑制するために当四半期にわたって実行された施策により、第一分野商品の販売が 24.7%減少したことを心強く思っています。さらに追加の施策を継続実施しますので、本年度下半期の第一分野商品の販売は最低でも 50%の大幅な減少を見込んでいます。2016 年通年では、第三分野商品の販売が 3%減から 2%増の間の成長となるものと、当社は引き続き予想しています。繰り返しになりますが、第三分野商品販売の長期の複利成長年率は、4%から 6%の間となるものと確信しています」

「当四半期及び上半期において、財務業績の面で米国社は堅調な実績を挙げました。当四半期の販売は、期待値を下回るものでしたが、米国社の通年の販売目標の達成に向けて、当社は第 4 四半期の販売により多くを依存していることを思い起こしていただきたいと思えます。当社は、米国社の販売を通年で 3%から 5%増加させることに引き続き注力しています」

「当社は引き続き、ご契約者のために高い自己資本比率を維持することにコミットしています。当社の強い資本水準は、2016 年暦年の利益送金を 1,200 億円から 1,500 億円の範囲で実行ならしめるものと、当社は確信しています。このことは、上半期に大半が前倒しで実行された、2016 年度における 14 億ドル相当の自己株式取得計画を強化するものです」

「当年度下半期には、将来の成長に向けた取り組みに注力するため、特に販売促進と IT 関連の支出を増加させる見込みです。当社の年度目標は、2015 年度の平均為替レートである 1 ドル 120.99 円の下で、6.17 ドルから 6.41 ドルの希薄化後 1 株当たり事業利益を計上することであることを、ここに重ねて申し上げます。仮に第 3 四半期の期中平均円/ドル為替レートが 1 ドル 100 円から 110 円で推移した場合、第 3 四半期の希薄化後 1 株当たり事業利益(米国会計基準 GAAP 外の指標)は約 1.58 ドルから 1.86 ドルの間になるものと当社は予想しています。ここで思い起こしていただきたいのは、低金利環境の継続、特に日本におけるマイナス金利の影響は、資産運用にとって引き続き困難な課題となっているということです。こうした状況において、慎重なリスク許容度を保ちつつ、キャッシュ・フローを魅力的な利回りで運用することは困難です。世界で最も優れた二つの保険市場において、当社は良いポジションにあり、ご契約者に対する約束を着実に果たしつつ、1 株当たり利益目標達成のため、当社は懸命に努力を重ねています」

アフラックについて

当社は、ご契約者が病気または怪我をした時に給付金を現金で迅速にお支払いします。60 年にわたって、当社の商品は、ご契約者が経済的な負担を抱えずに回復に専念する機会を提供してきました。当社は米国では職域における任意加入保険販売 No.1 の会社です。先駆的な「ワン・デイ・ペイ」の取り組みにより、米国社は、有効な給付請求の受付、審査手続、承認及び支払いを 1 営業日で行うことができます。日本では、アフラックは医療保険・がん保険の最大手で、4 世帯に

1世帯がアフラックの保険に加入しています。当社の個人保険及び団体保険は、世界で5,000万人以上の方々に保障を提供し、お役立ていただいています。『Ethisphere』誌は10年連続で当社を「世界で最も倫理観の高い企業」の1社に選出しています。また、2016年、『フォーチュン』誌は、当社を18年連続で「全米で最も働きがいのある企業100社」に選出するとともに、15回目となる「世界で最も賞賛すべき企業」の1社にも選出、当社を生命保険及び医療保険分野のイノベーション部門において2年連続で第1位にランクしました。2015年、アフラックのコンタクトセンターは、その電話対応チャンネルにおいて、J.D.パワー社から「サービスに対する際立った顧客体験」の認定を受けました。Aflac Incorporatedはフォーチュン500社に入っており、ティッカー・シンボルAFLとしてニューヨーク証券取引所に上場しています。当社及び「ワン・デイ・ペイ」に関するさらに詳しい情報は、aflac.com 又は espanol.aflac.com をご覧ください。

当四半期の業績数値の補足資料(FAB Supplement)は、aflac.com「Investors」ページから入手可能です。

当社は、当四半期業績報告の電話会議の様様を2016年7月29日(金曜日)午前9時00分(米国東部夏時間)にaflac.com「Investors」ページ上で公開します。

Aflac Incorporated およびその子会社連結損益計算書(抜粋)

(単位:百万ドル。ただし、株式数および1株当たりの数字を除く—無監査)

6月30日に終了した3ヶ月間:

	<u>2016</u>	<u>2015</u>	<u>増減率</u>
収益合計	5,437	5,287	2.8%
保険金給付金	3,254	2,937	10.8%
新契約費及び事業費合計	1,349	1,476	-8.5%
税引前当期純利益	834	874	-4.7%
法人税等	286	301	
当期純利益	548	573	-4.3%
基本1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.33	1.33	-
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.32	1.32	-
1株当たり当期純利益計算に用いた普通株式数(単位:千株)			
基本	411,853	431,672	-4.6%
希薄化後	414,326	434,257	-4.6%
1株当たり現金配当(単位:ドル)	0.41	0.39	5.1%

6月30日に終了した6ヶ月間:

	<u>2016</u>	<u>2015</u>	<u>増減率</u>
収益合計	10,888	10,513	3.6%
保険金給付金	6,279	5,889	6.6%
新契約費及び事業費合計	2,658	2,737	-2.9%
税引前当期純利益	1,951	1,887	3.4%
法人税等	672	651	
当期純利益	1,279	1,236	3.5%
基本1株当たり当期純利益(単位:ドル)	3.08	2.84	8.5%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	3.06	2.83	8.1%
1株当たり当期純利益計算に用いた普通株式数(単位:千株)			
基本	415,301	434,473	-4.4%
希薄化後	417,623	437,077	-4.5%
1株当たり現金配当(単位:ドル)	0.82	0.78	5.1%

Aflac Incorporated およびその子会社連結貸借対照表(抜粋)

(単位:百万ドル。ただし、株式数を除く—無監査)

6月30日現在:

	2016	2015	増減率
資産:			
運用資産および現金・預金	125,983	103,280	22.0%
繰延新契約費	9,552	8,278	15.4%
その他の資産	5,752	3,981	44.5%
資産合計	141,287	115,539	22.3%
負債および株主持分:			
保険契約準備金	103,066	84,581	21.9%
社債等	5,009	5,383	-6.9%
その他の負債	10,662	8,557	24.6%
株主持分	22,550	17,018	32.5%
負債および株主持分合計	141,287	115,539	22.3%
期末発行済普通株式数(単位:千株)	410,115	430,617	-4.8%

事業利益と当期純利益の調整

(単位:百万ドル。ただし、1株当たりの数字を除く—無監査)

6月30日に終了した3ヶ月間:

	<u>2016</u>	<u>2015</u>	<u>増減率</u>
事業利益	707	651	8.6%
調整項目(税引後):			
資産運用実現(損)益:			
有価証券取引および減損	-13	60	
外貨建投資に関連するヘッジ費用	-31	-12	
その他のデリバティブおよびヘッジ活動の影響	-91	20	
その他及び非経常的(損)益	-24	-146	
当期純利益	548	573	-4.3%
希薄化後1株当たり事業利益(単位:ドル)	1.71	1.50	14.0%
調整項目(税引後):			
資産運用実現(損)益:			
有価証券取引および減損	-0.03	0.14	
外貨建投資に関連するヘッジ費用	-0.08	-0.03	
その他のデリバティブおよびヘッジ活動の影響	-0.22	0.05	
その他及び非経常的(損)益	-0.06	-0.34	
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.32	1.32	-

*調整項目は35%の税率で計算した税引後

6月30日に終了した6ヶ月間:

	<u>2016</u>	<u>2015</u>	<u>増減率</u>
事業利益	1,433	1,329	7.8%
調整項目(税引後):			
資産運用実現(損)益:			
有価証券取引および減損	37	100	
外貨建投資に関連するヘッジ費用	-60	-21	
その他のデリバティブおよびヘッジ活動の影響	-79	-14	
その他及び非経常的(損)益	-52	-158	
当期純利益	1,279	1,236	3.5%
希薄化後1株当たり事業利益(単位:ドル)	3.44	3.04	13.2%
調整項目(税引後):			
資産運用実現(損)益:			
有価証券取引および減損	0.08	0.23	
外貨建投資に関連するヘッジ費用	-0.14	-0.05	
その他のデリバティブおよびヘッジ活動の影響	-0.19	-0.03	
その他及び非経常的(損)益	-0.13	-0.36	
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	3.06	2.83	8.1%

*調整項目は35%の税率で計算した税引後

為替変動の業績への影響¹
 (主要項目の前年同期比増減率—無監査)

2016年6月30日に終了した3ヶ月間:

	<u>為替変動の 影響を含む</u>	<u>為替変動の 影響を除く²</u>
保険料収入	10.5%	2.0%
投資収益(ネット)	5.9%	1.2%
保険金給付金および事業費合計	9.6%	1.1%
事業利益	8.6%	3.1%
希薄化後1株当たり事業利益	14.0%	8.0%

¹数値は本書において定義した事業利益ベースで表示している。

²為替変動の影響を除外した数値は、前年同期と同様の円/ドル為替レートをを用いて算出した。

2016年6月30日に終了した6ヶ月間:

	<u>為替変動の 影響を含む</u>	<u>為替変動の 影響を除く²</u>
保険料収入	7.2%	1.8%
投資収益(ネット)	4.1%	1.2%
保険金給付金および事業費合計	5.9%	0.6%
事業利益	7.8%	4.2%
希薄化後1株当たり事業利益	13.2%	9.2%

¹数値は本書において定義した事業利益ベースで表示している。

²為替変動の影響を除外した数値は、前年同期と同様の円/ドル為替レートをを用いて算出した。

2016年度1株当たり事業利益¹予想

<u>円/ドル平均為替レート</u>	<u>1株当たり年間事業利益</u>	<u>対2015年度増加率</u>	<u>為替の影響</u>
100	\$6.85 - \$7.09	11.2% - 15.1%	\$ 0.68
105	\$6.66 - \$6.90	8.1% - 12.0%	\$ 0.49
110	\$6.49 - \$6.73	5.4% - 9.3%	\$ 0.32
115	\$6.34 - \$6.58	2.9% - 6.8%	\$ 0.17
120.99 ²	\$6.17 - \$6.41	0.2% - 4.1%	\$ -
125	\$6.07 - \$6.31	-1.5% - 2.4%	\$ -0.10

¹ 米国会計基準GAAP外の指標

² 実際の2015年度の年間加重平均為替レート